

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873900609		
法人名	株式会社 いっしん		
事業所名	グループホーム いっしん館 いなり		
所在地	茨城県かすみがうら市下稻吉1668-6		
自己評価作成日	平成25年9月29日	評価結果市町村受理日	平成26年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0873900609-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2		
訪問調査日	平成26年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人お一人の好みや楽しみを、その時の場面場面で見出し、希望に沿った支援を行っている。また、できる方々には役割りを持っていただき、楽しみのある雰囲気作りを、利用者様と一緒にやっている。また、ご家族様が何でも話しやすい関係を築き大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全国的に介護施設を展開し、組織化された中でも夫々が特徴ある施設として、利用者一人ひとりの状態に合わせた支援の提供に努めている事業所である。地域交流は民生委員を通して積極的に行い、地域の中で事業所としての立場を確立しようとする姿勢がみられる。勤務年数が長い職員が多いので何をどうすればいいのかを理解しており、利用者の思いを受けとめ利用者に合わせて支援を行っている。いっしん館の夏祭りには地域住民の参加があり、家族や利用者と一緒に楽しい一時を過ごしている。カラオケ大会には音響や踊りのボランティアが訪れ盛大に開催されており、利用者の意欲を高める機会となっている。買物や散歩、イベント等を実施し、利用者からは地域の中の住民としてゆったりした生活を楽しんでいる雰囲気が伝わってきた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営規定・基本理念・決め事十則を掲げており、職員一人一人がこれらを念頭に置き行っている。毎日朝礼で唱和を行っている。	法人の理念を基本とし、独自に地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成している。朝礼時に唱和を行い管理者・職員は共有し、日々のケアの実践につなげている。職員からは利用者に向けた整容を行うことにより、利用者の表情が明るくなるとの話があった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近所の散歩時などに近所の方との挨拶ができています。地域の自治会に加入しており、地域の行事に声を掛けていただいたり、夏祭りなどのイベントに地域の方の参加をいただいたりしている。	地域のイベント行事(かすみがうら祭・福祉祭等)に参加して、地域交流に努めている。そこで顔なじみになった人や、散歩時に挨拶を交わす人との輪が広がっている。事業所主催の夏祭りには学校の駐車場を提供してもらい、多数の地域住民参加があり、利用者も楽しみにしている。いっしん館合同のカラオケ大会には音響や踊りのボランティアが訪れ盛大に開催される。パチンコ店の定休日にパチンコレクとして利用させてもらっている。毎朝のラジオ体操には地域の方も一緒に参加し声をかけてくれるようになった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所隣の建物で行われているヘルパー2級講座に多数の方が受講され、認知症の人への理解や支援の方法を知る為の場として利用されており、実習の場としての受け入れもしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行っている会議では、事業所からの報告と共に、参加メンバーからの質問・意見・要望などを受けて、サービス向上の参考にさせていただいたり、地域交流の場ともさせていただいている。	2ヶ月毎に行政・家族・民生委員・地区長・医療関係者・事業所関係者で開催しており、主な議題は事業報告・利用者状況等である。季節に応じて訪看も参加し、勉強会を兼ねた会議を開催したり、意見交換を行いサービス向上に活かしている(高齢者は冷房を嫌う傾向があるので設定温度を考慮して欲しいと要望に配慮した)。議事録は家族へ特に報告はしていない。職員には会議等で報告している。	昨年度の目標達成に向けた具体的な取り組みに『家族にも書面にて開示していく』となっているので、運営推進会議の意義を家族にも伝え、事業所のみでなく、家族と一緒に事業所に対する理解と支援を得ることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員や認定調査での来館時、定期的な市役所への訪問時などに事業所の情報を伝えている。また、訪問時に気付いたことなどを相談したり、アドバイスをいただいている。	介護相談員・社協と情報交換を行い、利用者の想い等を共有している。行政への定期的訪問や来訪により取り組みを伝えたり、アドバイスを受けるなど、協力関係を築いている。小・中学校の体育祭の招待を受けて見学に出かけ、一生懸命な生徒の姿に感銘を受けた利用者がいる。体験学習は考慮中。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回のミーティング時や研修などで身体拘束の対象となる具体的な行為を話し合ったり、代表者や職員を問わず、日常的に確認をしている。また、各ユニットにマニュアルも置き、実施している。	マニュアルをもとに、月1回の会議・研修で拘束となる具体的な行為・弊害を話し合い、拘束をしないで利用者の安全を配慮したケアの提供に努めている。スピーチロックについてはその都度職員・管理者で話し合い、考えてもらうようにしている。安全防止のため音量を配慮したセンサーを設置しているが、玄関は施錠していない。汚れを気にする利用者の希望から食事前エプロンを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケース記録、申し送り、業務日誌などを活用して、細やかな対応を心掛けると共に、資料や研修を通じて虐待とは何かを自覚するように、話し合ったり取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市役所や病院などに設置してある資料から情報収集をしている。また、機会がある毎に職員には資料を配ったり、説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を取って、事業所のケアや取り組み、対応可能な範囲について説明をして、理解や納得をいただき同意を得ている。また、質問や疑問点にはいつでも問い合わせに応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には定期的には手紙を出し、来館時に何でも言っていたり様々な雰囲気作りをしたり、こちらから声掛けさせていただいている。問題が起きた時には早期解決できるように迅速な対応を心掛け行っている。	家族には定期的には手紙を出したり、面会時に直接聞き、意見の吸い上げに努めている。利用者の意見は日々の会話からの気づき反映させている。意見箱の設置・第3者機関名・電話番号を明示し、意見の言い出しにくいや家族や利用者へ配慮している。職員の異動が多いという意見に対し、会社として真摯に受け止めキーポイントとなる職員の異動は差し控え職員を育てたいとの事。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご家族様には定期的には手紙を出し、来館時に何でも言っていたり様々な雰囲気作りをしたり、こちらから声掛けさせていただいている。問題が起きた時には早期解決できるように迅速な対応を心掛け行っている。	職員の意見や要望をミーティング時に聞く機会を設けている。以前は代表も同席していたが、代表がいるとなかなか率直な意見を言い出しにくいのではと考え、現在は同席はしていない。日々の気づきは管理者に伝え上層部に伝達されて反映される仕組みになっている。以前は会議が多かったが、利用者とのかわりの時間を大切にしたいという要望に配慮し会議の回数を少なくしてみた。管理者は職員のストレスや不満解消に努め、働きやすい環境整備に努めている。離職防止として処遇改善と退職金制度の活用を管理者から代表に要望している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日常的に職員とコミュニケーションを図り、意見などを聞く機会を設けており、代表者も定期的にミーティングに参加することで、より細かく意見を聞くように心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	テーマを決め、定期的に社内研修を行っている。なるべく多くの外部研修の情報を入手し、受講できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所との交流会などに積極的に参加し、研修会などで意見交換したり、情報を得たりして、質の向上に努めています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前相談によりご本人様の生活面等の把握に努め、職員は資料を基に関係作りを活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居日にご家族様に希望等をゆっくり話し合える機会や時間を作り、一日も早く利用者様の事を理解できるように努めている。入居後も連絡を取り合いながら、安心していただけるような関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の意思を尊重し、できる限り柔軟な対応を行っていくことで、より良い支援ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に暮らしを共に送る中で、自然の流れでともに園芸をしたり、食事の片付けを行ったりと支え合っている。外出をしたりする機会を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節ごとの行事の他にも、事業所のイベント(夏祭り・一泊旅行)のお誘いをお便りを通じてご家族様にお誘いしている。来館時にはご本人様とご家族様がゆっくりしていただけるような環境作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの友人や知人等の家に遊びに行ったり、連絡を自由にできるようにしている。	友人・知人・家族の面会以外に、遠方の方々とは家族の了解を得て、電話や手紙・年賀状で連絡を取り合い、馴染みの人との関係継続を支援している。外泊・墓参り・美容院等馴染みの場所への外出は、時には家族の協力も得ている。馴染みの酒肴品の提供もしている。毎日職員と神棚にお水を供える利用者がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士が交流しやすいようにホール内にソファや、冬はコタツ等を設置し、好きな場所でそれぞれが過ごしていただけるような環境作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他館に移動された方にも行事・イベントに参加して頂く関係を築いている。契約終了した後も、いつでも連絡が取り合える状態になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日ご利用者様と会話をし、行動・表情等を観察して情報を得ている。また、過去の記録やご家族様からの情報も参考にさせていただいている。会話の難しい方は、ジェスチャー等から汲み取っている。	日々の会話から利用者の思いを把握し、その時々にあった支援に努めている。なかなか遠慮して自分の意見を言わない利用者の思いの把握を、職員でなるべく共有し、細かな仕草や様子からも吸い上げる努力をしている。現在自己表現の難しい利用者はいない。業務を優先するのではなく利用者の思いを大切に自由で過ごしてもらおうようにしている。いっしん館で開催される将棋大会に出かける利用者がいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の今までの暮らしや生活様式をご家族様からお聞きし、今までの生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時、ケース記録・申し送りノートの確認、朝礼・夕礼での申し送りで、その日の様子や予定を職員全員が把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行われるスタッフミーティングで、意見交換や各職員が気になった事を随時話し合い、アセスメント作成、介護計画作成に活かしている。	家族・利用者の思いや希望を聞き、担当者会議で利用者の課題とケアのあり方について話し合い、介護計画書を作成している。作成後は家族に説明し同意を得ている。モニタリング・評価は1ヶ月ごとに実施し、現況に応じた再プランを立てている。始まったばかりの担当者会議を充実化し、目標達成に向け、ケアプランに連動したケース記録に移行したいとの事。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の状態変化や少しでも気になった事は、業務日誌やケース記録を活用し、全職員が把握している。状態が大きく変化した場合は、介護計画書の見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の状況に応じて、受診などの必要な支援は柔軟に対応している。外出する際は、その日の気分や天候によって変わるニーズへの対応も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して地域で生活できるように介護相談員などからいただいた情報を基に、地域のイベントなどに参加させていただく機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医他、利用者様やご家族様の希望により、他医療機関への受診もできるようになっている。	心療内科・精神科・外科・歯科の往診(眼科は随時)があり、利用者の健康管理に努めている。突発時は家族に連絡して受診支援を行い、協力医療機関対応記録に残して職員は共有している。家族への連絡は電話で報告しているが、報告内容の記載(いつ・誰が・誰に伝えたか)が無い。	突発時や急変時は家族に連絡し受診対応をし、結果を電話で報告して記録に残しているが、家族との確認が必要となった場合に、いつ・誰に・誰が伝達したかを記載することが望ましい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調やわずかな表情の変化を見逃さないように早期発見に取り組んでいる。変化があった際には、訪問介護や主治医に連絡行い、指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを医療機関に提供し、こまめな面会も行っている。病院関係者との情報交換・相談、ご家族様と連絡を取り合うことで、早期退院に向けて取り組んでいる。また、密に連絡を取ることで病院関係者ともいい関係が築けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで	安心して納得した最期を迎えられるよう、本人様、ご家族様の意向を踏まえ、医師と職員が連携を取っている。また、ご家族様の意向の変化にも柔軟に対応したり、ご家族様の心のケアにも配慮している。	契約時に重度化した場合の説明を行い、ケースバイケースで対応しており、同意書の取り交わしを検討している。今後要望があった場合は出来るだけ希望に応える支援に努めたいが現時点では医療連携等が万全ではない。今後はそれに添った支援を行いたい、会社全体の統一化が必要であるとの事。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が2年に一度の救急救命講習を受けている。また、マニュアルを目につく所に置いたり、吸引ノズル・吸マスクなどの保管場所を統一化するなどし、急変時・救急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者と一緒に避難訓練を行っている。運営推進会議などで、地域への働きかけを行っている。災害時の備蓄も整えている。	年2回の訓練を実施(消防署指導・自主訓練)し、利用者が安全に避難できる方法を職員は身につけている。避難時はプレーカーを下ろし、通電火災に気をつけるよう、全職員で確認している。コンセントの点検は随時実施している。備蓄品・緊急持ち出し用品は整備している。今後、地域に協力依頼内容の構築が必要と感じている。	運営推進会議で協力依頼はしているが、夜間職員1名の体制であるので地域住民の協力は不可欠であると考えられる。具体的な協力依頼内容を構築し、合同訓練の実施を提案する。家族・職員に広域避難場所の周知をお願いします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として尊敬の念を持ち、敬意を払い、日頃の言葉遣い、感謝の気持ちを忘れないなど、ご本人の気持ちを大切にケアを行っている。個人情報などの書類も管理徹底を行っている。	利用者に対する声掛けはゆっくりで、職員が笑顔で接していた。その姿勢は利用者を尊敬していることから、自然と出ていると感じた。個人情報書類関係は事務所で管理している。個人情報の開示については同意を得ている。面会簿は一枚ずつファイルしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様一人一人の思いや希望を汲み取り、ご本人様が自分で決められる様な環境作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その場その場での希望や体調などを考慮し、一人一人のペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服装を自分で決められる方は自分で決めていただいているが、自己決定が難しい方は職員と一緒に考え、身だしなみを整えている。ご家族様の協力をいただくこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは健康を考慮して作成している。利用者様にも時々メニュー作りに参加していただいている。そして、利用者様と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事をしている。また、健康状態によっては摂取状況を記録に残している。	献立は利用者の希望を聞き、買出しと一緒に出かけ、季節の食材を取り入れて提供している。配膳・下膳は利用者が行い、ご馳走様・美味しかった・有難うございますと職員と利用者の会話がほのぼのとしていた。外食希望者には外来受診日にあわせたり、数名ずつ組んで出かけている。職員と同じテーブルで会話を交わしながらの楽しい食事風景である。おやつ作り(ホットケーキ等)は利用者のやりがいを発揮できる場となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録表を活用して、栄養摂取量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科往診を行っており、指示をいただきながら利用者様に合わせた口腔ケアを毎食後行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人一人の排泄パターンを周知しており、タイミングを見てトイレ誘導を行い、排泄を促している。	ほとんどの利用者が自立しているが、排泄チェック表・パターン・表情・様子から察知し見守り支援を行い、夜間は声掛け誘導を行っている。失禁時にはプライバシーに配慮した対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の排泄を記録し、確認しながらその都度対応している。食事に工夫をしたり、適度な運動も働きかけ、職員と共に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様と話し合い、その時の心身の状態を考慮しつつ、タイミングを見て好きな時間に入浴していただいている。	利用者の体調に合わせた入浴支援を行っている。基本的には週3回であるが、希望があれば、予定日以外でも入浴可能である。異性介護者拒否の場合は同性介護で対応。ヒートショックに注意し洗面所の暖房を行っている。足拭きマットは個人用を使用したり、指の間をよく洗い感染防止に努めている。季節のゆず湯・菖蒲湯や入浴剤を提供し利用者のホッとする工夫に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方などにも配慮を行いながら、メリハリのある生活を送っていただくことで、安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様が何の薬を処方されていて、どのような副作用があるか誰が見ても分かる様ファイルに綴じ、すぐ確認できるよう努めている。また、追加薬の情報も申し送り等で徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる方には洗濯物畳みや掃除、食器洗い等をお願いしている。役割りを持っていただく事で、皆の役に立っているというやりがいや喜びのある生活を送っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の希望や時間を見計らい、散歩などを行っている。個人レクや他館のレクへの参加、普段行けない所への外出は、計画を立てて実施している。ご家族がいらっしゃる方はご家族様との外出もされている。また、毎年1回の一泊旅行への参加も楽しみにされている。	年1度の靖国神社への参拝・一泊旅行・いっしん館運動会は利用者と家族との思い出づくりに大切なページとなっている。初詣・季節ごとの外出支援の他、天気のよい日は毎日庭で体操をしたり、お弁当を持ってピクニックや近場を散歩したり、個人レクを行い、自然の風を肌で感じ、太陽の日差しを浴び五感の刺激を受け、季節の移ろいを感じてもらっている。家族の協力を得て外出する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望に応じて買い物を行っている。規定で個人では現金を所持する事ができないため、ご自分で買い物に行ける方は、職員が同行し一緒に支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様とご家族様でのやり取りではなく、職員を通しての伝言となった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が利用しやすいように整備しています。歩行の際妨げになる物はなく、飾りも季節が分かる様に飾り付けを行っています。	共有スペースのソファや畳のコーナーで利用者様のんびり過ごしている様子がみえた。季節の飾り物(節分の鬼等)で見当識を意識できるように配慮されている、家族と利用者との話題づくりとして、イベントや外出時の写真を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなど家具を配置することで利用者様同士のコミュニケーションが図れる場所作りを行い、一人一人の利用者様に自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の思い出の品々をご自由にお持ちいただき、自由に配置することで、居心地の良い居室作りができています。	居室入り口は利用者の名前を大きく表示し、混乱が起らないように配慮している。馴染みのテレビ・箆笥・仏壇・いす・テーブル等を安全に配置し、小物や家族の写真・思い出のぬいぐるみ・趣味の草花等を飾り、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。居室の掃除は職員と一緒にやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人に合った身体状況の中で、家具や寝具を配置し、なるべくご本人様自身でできる事はやっていたりできるように工夫している。建物全体はバリアフリーになっている。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホームいっしん館いなり

作成日:平成26年4月5日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		地域運営推進会議の内容などについて、参加いただけていないご家族様へお伝えしたり、参加の促しが出来ていない。	出来るだけ多くのご家族様へご参加頂きより良い館運営に繋げ情報共有していく。	毎月ご家族様へお送りしているお便りに運営推進会議報告書を添えて発送し情報共有を図る。又、その報告書の中に本年度の開催予定日時を予め明記し参加を促していく。	3ヶ月
2		突発時や急変時は、ご家族様へお伝えし記録に残してはいるが、事後での確認において、いつ・誰が・何を伝えどようになったかの記録が薄い。	様々な利用者様状況についての報告が振り返られるよう記録に残し、利用者様・ご家族様・職員の更なる信頼関係が図れるようにしていく。	医療的な報告は勿論ですが、日々の心身の状態について連絡を密に図り、いつ・誰が・どなたに・どのような報告をしたかを連絡ノートに残し記録としていく。	3ヶ月
3		避難訓練は年二回行い職員の意識向上は図れているが、夜間など職員が少ないときの、対策と地域の方からの協力が課題となっている。	非常時などに、双方で協力体制が図れるよう近隣の方と関係構築を図って行く。	まずは、館で行う行事・イベントなどへ近隣の方を招くために、お知らせのチラシを作り参加して頂きそこから、避難訓練への参加や非常時の際の協力を頂いていく。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。